

時	グリーンコース		ブルーコース		オレンジコース	
ねらい	何百何十÷何十や何十÷何十の除法の計算について10のいくつ分で考えることで、既習の除法を用いて考えることができる。					
評価規準	10を単位としてみて、何十、何百何十÷何十の計算の仕方を既習の除法を用いて考える。					
問題	60まいの折り紙を一人に20まいずつ分けます。何人に分けられるでしょう。					
課題	60÷20の計算の仕方を考えよう。					
1	<p><b>主な学習活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題を読んで意味を理解する。</li> <li>60÷20の計算の仕方を考える。</li> <li>既習の方法で説明に使えるものは無いか考える。</li> <li>○図、テープ図、引き算、筆算、10をかたまりとした見方、言葉の式で答えを出す。</li> <li>全体交流でそれぞれの考え方を発表する。</li> <li>どの考え方が「はかせどん」か考える。</li> <li>練習問題を行う。</li> <li>自己評価をする。</li> </ul>	<p><b>指導・援助の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>やり方を復習するために、それぞれの方法を書く。</li> <li>評価は友達の考えから分ったことを文で書かせる</li> </ul>	<p><b>主な学習活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題を読んで意味を理解する。</li> <li>60÷20の計算の仕方を考える。</li> <li>既習の方法で説明に使えるものは無いか考える。</li> <li>○図、テープ図、引き算、筆算、10をかたまりとした見方、言葉の式で答えを出す。</li> <li>全体交流でそれぞれの考え方を発表する。</li> <li>どの考え方が「はかせどん」か考える。</li> <li>練習問題を行う。</li> <li>自己評価をする。</li> </ul>	<p><b>指導・援助の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題の意味を理解しやすいように、折り紙の絵を提示する。</li> <li>やり方を復習するために、それぞれの方法を書く。</li> <li>評価は友達の考えから分ったことを文で書かせる</li> </ul>	<p><b>主な学習活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題を読んで、意味を理解する。</li> <li>式を考えさせる。</li> <li>60÷20の計算の仕方を考える。</li> <li>数直線を書く。</li> <li>○図を使って答えを出す。</li> <li>なぜ60÷20の商が4になるのか説明する。</li> <li>全体交流で60÷20=4であることを確認する。</li> <li>練習問題を行う。</li> <li>評価カードに評価を書く。</li> </ul>	<p><b>指導・援助の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題の意味を理解しやすいように、折り紙の絵を提示する。</li> <li>数直線を使って問題の内を書き表す方法を知らせる。</li> <li>答えが出ても考えの説明ができない子にヒントカードを渡す。</li> <li>評価は、友達の考えから分ったことを文で書かせる。</li> </ul>
ねらい	何百何十÷何十のあまりのある計算についてあまりも10のいくつ分で考えることで、あまりを正しく求めることができる。					
評価規準	10をもとにしてわり算を考える場合、あまりも10のいくつ分で考えて計算できる。					
問題	170÷50の計算のしかたを考えよう。					
課題	170÷50の計算のしかたを考えよう。					
2	<p><b>主な学習活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習を振り返る。</li> <li>問題を把握する。</li> <li>170÷50の計算の仕方を考える。</li> <li>前時と本時の内容の違いを考える。</li> <li>○図、テープ図、引き算、筆算、10をかたまりとした見方、言葉の式で答えを出す。</li> <li>答えが出た子は、答えの確かめをする。</li> <li>全体交流でそれぞれの考え方を発表する。</li> <li>商が3(個)であまりが20(円)になる理由を説明する。</li> <li>どの考え方が「はかせどん」か考える。</li> <li>鉛筆問題2をやる。</li> </ul>	<p><b>指導・援助の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習の足跡を掲示しておく。</li> <li>本時は、割られる数が三桁になり、あまりがあることをおさえる。</li> <li>確かめ算のやり方を確認する。</li> </ul>	<p><b>主な学習活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習を振り返る。</li> <li>問題を把握する。</li> <li>170÷50の計算の仕方を考える。</li> <li>前時と本時の内容の違いを考える。</li> <li>○図、テープ図、引き算、筆算、10をかたまりとした見方、言葉の式で答えを出す。</li> <li>答えが出た子は、答えの確かめをする。</li> <li>全体交流でそれぞれの考え方を発表する。</li> <li>商が3(個)であまりが20(円)になる理由を説明する。</li> <li>どの考え方が「はかせどん」か考える。</li> <li>鉛筆問題2をやる。</li> </ul>	<p><b>指導・援助の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習の足跡を掲示しておく。</li> <li>本時は、割られる数が三桁になり、あまりがあることに気付かせる。</li> <li>確かめ算のやり方を確認する。</li> </ul>	<p><b>主な学習活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習を振り返る。</li> <li>問題を把握する。</li> <li>前時と本時の内容の違いを考えよう。話し合う。</li> <li>170÷50は、10をもとにして計算すればよいことに気づく。</li> <li>あまりの2は、どんな数が2こあることなのか考える。</li> <li>答えが出た子は、答えの確かめをする。</li> <li>全体交流で、170÷50=あまり20であることを確認する。</li> <li>鉛筆問題2をやる。</li> <li>自己評価をする。</li> </ul>	<p><b>指導・援助の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習の足跡を掲示しておく。</li> <li>本時は、あまりがあることに気付かせる。</li> <li>170も50も10を元にして考えることに気付かせる。</li> <li>ヒントカードの必要なカードを与える。</li> <li>確かめ算のやり方を提示して、本時の数字をあてはめさせる。</li> <li>ノートをチェックし、個別指導をする。</li> </ul>
ねらい	2位数÷2位数の除法の計算について、除数をおよその数で見て、商の見当をつけ、商を立てて筆算で計算することができる。					
評価規準	2位数÷2位数の除法の計算が筆算で正しくできる。					
問題	63枚の折り紙を一人に21枚ずつ分けます。何人に分けられるでしょう。					
課題	63÷21の計算の仕方を考えよう。					
3	<p><b>主な学習活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題を把握する。</li> <li>第1時の問題との違いを見つけ、発表する。</li> <li>63÷21の計算の仕方を考える。</li> <li>○図、テープ図、引き算、筆算、10をかたまりとした見方、言葉の式のなかで使えないものもあることを考える。</li> <li>全体交流でそれぞれの考え方を発表して答えを出す。</li> <li>「はかせどん」の筆算の仕方を考える。</li> <li>21を20と見て63÷20で商を3と立てる。</li> <li>63÷21=3 答え3</li> <li>全体交流で筆算の仕方を確認する。</li> <li>鉛筆問題1をやる</li> </ul>	<p><b>指導・援助の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>60÷20の計算の仕方を思い出させる。</li> <li>筆算ではどのような計算になるのかヒントカードを元に考えさせる。</li> <li>21は20と30のどちらに近いか考えさせる。</li> <li>早くできた子同士、交流させる。</li> <li>個別指導の必要な子を把握しておく。</li> </ul>	<p><b>主な学習活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題を把握する。</li> <li>第1時の問題との違いを見つけ、発表する。</li> <li>63÷21の計算の仕方を考える。</li> <li>○図、テープ図、引き算、筆算、10をかたまりとした見方、言葉の式のなかで使えないものもあることを考える。</li> <li>全体交流でそれぞれの考え方を発表して答えを出す。</li> <li>「はかせどん」の筆算の仕方を考える。</li> <li>21を20と見て63÷20で商を3と立てる。</li> <li>63÷21=3 答え3</li> <li>全体交流で筆算の仕方を確認する。</li> <li>鉛筆問題1をやる</li> </ul>	<p><b>指導・援助の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>60÷20の計算の仕方を思い出させる。</li> <li>筆算ではどのような計算になるのかヒントカードを元に考えさせる。</li> <li>21は20と30のどちらに近いか考えさせる。</li> <li>早くできた子同士、交流させる。</li> <li>フラッシュカードを使って確認する。</li> <li>個別指導の必要な子を把握しておく。</li> </ul>	<p><b>主な学習活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題を把握する。</li> <li>第1時の問題との違いを見つけ、発表する。</li> <li>式を考える。</li> <li>63÷21の計算の仕方を考える。</li> <li>数玉をかいて答えを出す。</li> <li>筆算の仕方を考える。</li> <li>21を20と見て63÷20で商を3と立てる。</li> <li>63÷21=3 答え3</li> <li>全体交流で筆算の仕方を確認する。</li> <li>鉛筆問題1をやる</li> <li>自己評価する。</li> </ul>	<p><b>指導・援助の工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>60÷20の計算の仕方を思い出させる。</li> <li>数玉を使って、十の位と1の位を分けて考えさせる。</li> <li>筆算ではどのような計算になるのかヒントカードを元に考えさせる。</li> <li>21は20と30のどちらに近いか考えさせる。</li> <li>早くできた子同士、交流させる。</li> <li>個別指導の必要な子を把握しておく。</li> </ul>

ねらい	2位数÷2位数の除法の計算で、あまりのある計算を筆算で計算することができる。					
評価規準	2位数÷2位数のあまりのある計算が筆算で正しく計算することができる。					
問題	87÷21の筆算の仕方を考えましょう。					
課題	商の立て方を考えて筆算で計算しよう。					
4	学習活動	指導・援助の工夫	学習活動	指導・援助の工夫	学習活動	指導・援助の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習を振り返る。</li> <li>問題を把握する。</li> <li>前時と比べ、割られる数が大きくなっているが、割る数は同じであることに気づく。</li> <li>87÷20とみて、4が立ちそうなこと商を立てる。</li> <li>87÷21=4あまり3</li> <li>21×4+3=87</li> <li>全体交流で、見当をつけて商を立てるとやりやすいことを確認する。</li> <li>確かめ算で答えが正しいことを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>63÷21の計算の仕方を思い出させる。</li> <li>前時は割り切れたが、本時は、わりきれないことに気づかせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習を振り返る。</li> <li>問題を把握する。</li> <li>前時と比べ、割られる数が大きくなっているが、割る数は同じであることに気づく。</li> <li>87÷20とみて、4が立ちそうなこと商を立てる。</li> <li>87÷21=4あまり3</li> <li>21×4+3=87</li> <li>全体交流で、見当をつけて商を立てるとやりやすいことを確認する。</li> <li>確かめ算で答えが正しいことを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>63÷21の計算の仕方を思い出させる。</li> <li>前時は割り切れたが、本時は、わりきれないことに気づかせる。</li> <li>たしかめ算の仕方を掲示しておく。</li> <li>フラッシュカードを使って確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題を把握する。</li> <li>前時と比べ、割られる数が大きくなっているが、割る数は同じであることに気づく。</li> <li>87÷20とみて商を立てる。</li> <li>87÷21=4あまり3</li> <li>21×4+3=87</li> <li>全体交流で、見当をつけて商を立てるとやりやすいことを確認する。</li> <li>あまりがわる数より小さくしていることを確認する。</li> <li>鉛筆問題2をやる</li> <li>自己評価をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時のやり方を思い出す</li> <li>前時は割り切れたが、本時は、わりきれないことに気づかせる。</li> <li>たしかめ算の仕方を掲示しておく。</li> <li>時間があれば、鉛筆問題3もやる。</li> </ul>
ねらい	2位数÷2位数の除法の計算について仮商が過大商になる場合、仮商を修正して商を見つける筆算ができる。					
評価規準	仮商が大きすぎた場合は、商を1つずつ小さくした修正を行い、商を見つける筆算ができる。					
問題	95÷34の計算の仕方を考えよう。					
課題	商の見当をつけてから計算する方法を考えよう。					
5	主な学習活動	指導・援助の工夫	主な学習活動	指導・援助の工夫	主な学習活動	指導・援助の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習を振り返る。</li> <li>問題を把握する。</li> <li>34を30と見て商を立てる。</li> <li>95÷34の商を3として、計算する。</li> <li>95÷34の商を3として計算すると34×3=102となり、3では大きすぎるので、商を2として計算する。</li> <li>95÷34=2あまり27</li> <li>見当をつけた商が大きすぎたときは、商を小さくしていくとよいことに気づく。</li> <li>全体交流で確認する。</li> <li>りんご問題をやる。</li> <li>評価問題をやる</li> <li>自己評価をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>四捨五入して、見当をつけてから計算を始めることよいことを思い出させる。</li> <li>34を30とみて商を見当させる。</li> <li>実際に計算して気づいたことを話し合わせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習を振り返る。</li> <li>問題を把握する。</li> <li>34を30と見て商を立てる。</li> <li>95÷34の商を3として、計算する。</li> <li>95÷34の商を3として計算すると34×3=102となり、3では大きすぎるので、商を2として計算する。</li> <li>95÷34=2あまり27</li> <li>見当をつけた商が大きすぎたときは、商を小さくしていくとよいことに気づく。</li> <li>全体交流で確認する。</li> <li>りんご問題をやる。</li> <li>評価問題をやる</li> <li>自己評価をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>四捨五入して、見当をつけてから計算を始めることよいことを思い出させる。</li> <li>34を30とみて商を見当させる。</li> <li>実際に計算して気づいたことを話し合わせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返り</li> <li>問題を把握する。</li> <li>34を30と見て商を立てる。</li> <li>95÷34の商を3として、計算する。</li> <li>95÷34の商を3として計算すると34×3=102となり、3では大きすぎるので、商を2として計算する。</li> <li>95÷34=2あまり27</li> <li>見当をつけた商が大きすぎたときは、商を小さくしていくとよいことに気づく</li> <li>全体交流で確認する。</li> <li>りんご問題をやる。</li> <li>まとめをする</li> <li>自己評価をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>見当をつけて計算することよいことを思い出させる。</li> <li>34を30とみて商を見当させる。</li> <li>実際に計算して気づいたことを話し合わせる。</li> </ul>
ねらい	2位数÷2位数の除法の計算について、仮商が過小商になる場合、仮商を修正して商を見つける筆算ができる。					
評価規準	仮商が小さすぎた時は、商を1つずつ大きくした修正を行い、商を見つける筆算ができる。					
問題	85÷27の筆算のしかたを考えよう。					
課題	商の見当をつけてから計算する方法を考えよう。					
6	主な学習活動	指導・援助の工夫	主な学習活動	指導・援助の工夫	主な学習活動	指導・援助の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習を振り返る。</li> <li>問題を把握する。</li> <li>27をいくつと見て見当をつけるか話し合う。</li> <li>27を30と見て商を立てて85÷27の計算を行う。85÷27=2あまり31</li> <li>あまりが多すぎるときはどうか考える。</li> <li>商を修正し、3を立てて計算する。85÷27=3あまり4</li> <li>りんご問題をやる。</li> <li>鉛筆問題5をやる</li> <li>自己評価をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>四捨五入して、見当をつけてから計算を始めることよいことを思い出させる。</li> <li>27は30に近いことに気づかせる。</li> <li>85÷30は2がたつので、27×2=54、85-54=31だが、あまりが多すぎること気づかせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の学習を振り返る。</li> <li>問題を把握する。</li> <li>27をいくつと見て見当をつけるか話し合う。</li> <li>27を30と見て商を立てて85÷27の計算を行う。85÷27=2あまり31</li> <li>あまりが多すぎるときはどうか考える。</li> <li>商を修正し、3を立てて計算する。85÷27=3あまり4</li> <li>りんご問題をやる。</li> <li>鉛筆問題5をやる</li> <li>自己評価をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>四捨五入して、見当をつけてから計算を始めることよいことを思い出させる。</li> <li>27は30に近いことに気づかせる。</li> <li>85÷30は2がたつので、27×2=54、85-54=31だが、あまりが多すぎること気づかせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>振り返り</li> <li>問題を把握する。</li> <li>27をいくつと見て見当をつけるか話し合う。</li> <li>27を30と見て商を立てて85÷27の計算を行う。</li> <li>85÷27=2あまり31</li> <li>あまりが多すぎるときはどうか考える。</li> <li>商に3を立てて計算する。</li> <li>85÷27=3あまり4</li> <li>りんご問題94÷15にも挑戦する。</li> <li>まとめをする。</li> <li>鉛筆問題5をやる</li> <li>自己評価をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時どのように見当をつけて計算したか話し合う。</li> <li>「およその数」でやった四捨五入を思い出させ、27は30に近いことに気づかせる。</li> <li>85÷30は2がたつので、27×2=54、85-54=31。ここで、あまりが多すぎること気づかせる。</li> <li>ヒントカードには、2つの筆算が書けるようにマス目を準備しておく。</li> <li>時間がない時には、割る数が15の時は、いくつに見当をつけるとよいかのみ話し合う。</li> </ul>
ねらい	練習問題を解決することを通して、2けたで割る計算で学習した内容をより確かなものにするすることができる。					
評価規準	既習事項を使って問題を解決していくことができる。					
問題	P17の練習問題をやりましょう。					
課題	学習してきたことを使って答えを求めよう。					
7	主な学習活動	指導・援助の工夫	主な学習活動	指導・援助の工夫	主な学習活動	指導・援助の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> <li>練習問題に取り組む。</li> <li>答え合わせをする。</li> <li>練習プリントに取り組ませる。</li> <li>計算ドリルに取り組む。</li> <li>自己評価をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習の足跡を掲示しておく。</li> <li>個別指導をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>練習問題に取り組む。</li> <li>答え合わせをする。</li> <li>計算ドリルに取り組む。</li> <li>自己評価をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習の足跡を掲示しておく。</li> <li>個別指導をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>練習問題に取り組む。</li> <li>分からない子には、やり方を教えてあげる。</li> <li>答え合わせをする。</li> <li>問題作りに取り組む。</li> <li>計算ドリルに取り組む。</li> <li>自己評価をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習の足跡を掲示しておく。</li> <li>個別指導をする。</li> </ul>

ねらい	3位数÷2位数で、商が1の位になる場合において、除数62を60とみて商の見当をつけ、筆算で正しく計算することができる。					
評価規準	3位数÷2位数で、商の見当づけを行い、商が1位数になることがわかり、仮商を修正して筆算で正しく計算することができる。					
問題	540枚の折り紙を1人に62枚ずつ分けます。何人に分けられて、何枚あまるでしょう。					
課題	540÷62の計算で、商を1の位にたてて筆算で考えよう。					
8	<p>主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題把握する。</li> <li>割る数62をいくつに見当するとよいか考える。</li> <li>540÷62は、商がどの位に立ちそうか話し合う。</li> <li>課題を確認する。</li> <li>割る数62を60とみて商を見つける。</li> <li>540÷60=9 しかし、わる数が62なので、商が9ではわることができないことに気づく。商を8に置き換える。540÷62=8あまり44答え、8人に分けられて44まいあまる。</li> <li>りんご問題を行う。</li> <li>鉛筆問題1を行う。</li> </ul>	<p>指導・援助の工夫</p>	<p>主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題把握する。</li> <li>割る数62をいくつに見当するとよいか考える。</li> <li>540÷62は、商がどの位に立ちそうか話し合う。</li> <li>課題を確認する。</li> <li>割る数62を60とみて商を見つける。</li> <li>540÷60=9 しかし、わる数が62なので、商が9ではわることができないことに気づく。商を8に置き換える。540÷62=8あまり44答え、8人に分けられて44まいあまる。</li> <li>りんご問題を行う。</li> <li>鉛筆問題1を行う。</li> </ul>	<p>指導・援助の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>540÷62において、1の位のゼロをかくしておいて、62で割れるかどうか確かめる。</li> <li>商が1の位に立つことを確認する。</li> </ul> <p>答えの書き方を確認する。</p>	<p>主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題把握する。</li> <li>割る数62をいくつに見当するとよいか考える。</li> <li>540÷62は、商がどの位に立ちそうか話し合う。</li> <li>課題を確認する。</li> <li>割る数62を60とみて商を見つける。</li> <li>540÷60=9 しかし、わる数が62なので、商が9ではわることができないことに気づく。商を8に置き換える。540÷62=8あまり44答え、8人に分けられて44まいあまる。</li> <li>りんご問題341÷47を行う。できれば鉛筆問題1を行う。</li> <li>自己評価をする。</li> </ul>	<p>指導・援助の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>540÷62において、1の位のゼロをかくしておいて、62で割れるかどうか確かめる。</li> <li>商が1の位に立つことが理解できた全員に確認する。</li> <li>掛け算の苦手な子のため、掛け算の筆算のやり方を書いたカードを準備しておく。</li> <li>答えの書き方を確認する。</li> </ul> <p>かなり抵抗があると予想されるので、次の時間にも復習の時間を取り入れる。</p>
ねらい	3位数÷2位数で商が2位数になる計算について、除法の意味に基づいたり、既習の考えを活かしたりして筆算で商を見つけることができる。					
評価規準	3位数÷2位数で商が2位数の除法の筆算が正しくできる。					
問題	432÷18の計算の仕方を考えましょう。					
課題	商が2けたになる場合の計算を筆算で考えよう。					
9	<p>主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題把握する。</li> <li>前時と本時の違いを話し合う。</li> <li>432÷18の商は、十の位にたつことに気づく。</li> <li>432÷18の筆算の計算を考える。</li> <li>18を20とみて商を2とする。</li> <li>432÷18=24</li> <li>全体交流をする。</li> <li>りんご問題342÷21を行う。</li> <li>あまりがあることに気づく。</li> </ul>	<p>指導・援助の工夫</p>	<p>主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題把握する。</li> <li>前時と本時の違いを話し合う。</li> <li>432÷18の商は、十の位にたつことに気づく。</li> <li>432÷18の筆算の計算を考える。</li> <li>18を20とみて商を2とする。</li> <li>432÷18=24</li> <li>全体交流をする。</li> <li>りんご問題342÷21を行う。</li> <li>あまりがあることに気づく。</li> </ul>	<p>指導・援助の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ヒントカード1・わる数18を20とみて考える。</li> <li>十の位に商がくることに気づかせるために、割られる数の1の位、十の位をかくせるようにしておく。</li> <li>ヒントカードの拡大版を準備しておく、全体交流の説明で使わせる。</li> </ul>	<p>主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題把握する。</li> <li>前時と本時の違いを話し合う。</li> <li>432÷18の商は、十の位にたつことに気づく。</li> <li>432÷18の筆算の計算を考える。</li> <li>18を20とみて商を2とする。</li> <li>432÷18=24</li> <li>全体交流をする。</li> <li>りんご問題342÷21を行う。</li> <li>あまりがあることに気づく。</li> <li>まとめる。</li> <li>鉛筆問題2を行う。</li> <li>自己評価をする。</li> </ul>	<p>指導・援助の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ヒントカード1・わる数18を20とみて考える。</li> <li>十の位に商がくることに気づかせるために、割られる数の1の位、十の位をかくせるようにしておく。</li> <li>ヒントカードの拡大版を準備しておく、全体交流の説明で使わせる。</li> </ul>
ねらい	除法に関して成り立つ性質を理解し、工夫して計算することができる。					
評価規準	わり算の性質を使って、より簡潔に処理できる式に変形しようと考えることができる。					
問題	600÷200を工夫して計算しましょう。					
課題	600÷200の計算方法を工夫しよう。					
10	<p>主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題把握する。</li> <li>10を元にして、600÷200を60÷20にして計算する。</li> <li>100を元にして、600÷200を6÷2にして計算する。</li> <li>全体交流をする。</li> <li>まとめる。</li> <li>200÷25ではどのような工夫ができるか考える。</li> <li>鉛筆問題1を行う。</li> <li>自己評価をする。</li> </ul>	<p>指導・援助の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>わる数、わられる数の両方にゼロがついていることに注目させる。</li> <li>わる数、わられる数のゼロをとって計算しても答えが一緒になることに気がつかせる。</li> <li>個別指導をする。</li> </ul>	<p>主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題把握する。</li> <li>10を元にして、600÷200を60÷20にして計算する。</li> <li>100を元にして、600÷200を6÷2にして計算する。</li> <li>全体交流をする。</li> <li>まとめる。</li> <li>200÷25ではどのような工夫ができるか考える。</li> <li>鉛筆問題1を行う。</li> <li>自己評価をする。</li> </ul>	<p>指導・援助の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>わる数、わられる数の両方にゼロがついていることに注目させる。</li> <li>わる数、わられる数のゼロをとって計算しても答えが一緒になることに気がつかせる。</li> <li>個別指導をする。</li> </ul>	<p>主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>600÷200の計算をする。</li> <li>100を元にして6÷2=3つまり600÷200=3</li> <li>わる数、わられる数の両方にゼロがついていることに注目させる。</li> <li>わる数、わられる数のゼロをとって計算しても答えが一緒になることに気がつかせる。</li> <li>個別指導をする。</li> </ul>	<p>指導・援助の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数玉で考えさせる。</li> <li>わる数、わられる数の両方にゼロがついていることに注目させる。</li> <li>わる数、わられる数のゼロをとって計算しても答えが一緒になることに気がつかせる。</li> <li>個別指導をする。</li> </ul>
ねらい	除法に関して成り立つ性質を活かした計算で、あまりの大きさを正しくとらえることができる。					
評価規準	手際よいい序法の計算のあまりの大きさがわかる。					
問題	5800÷500の計算を工夫してしましょう。					
課題	5800÷500の計算方法を工夫しよう。					
11	<p>主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題把握する。</li> <li>前時と本時の違いを話し合う。</li> <li>100を元にして、5800÷500を58÷5にして計算する。</li> <li>余りを3にするのか、300にするのか考える。</li> <li>確かめ算をする。</li> <li>全体交流をする。</li> <li>まとめる。</li> <li>鉛筆問題2、3を行う。</li> </ul>	<p>指導・援助の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>わる数、わられる数の両方にゼロがついていることに注目させる。</li> <li>個別指導をする。</li> </ul>	<p>主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題把握する。</li> <li>前時と本時の違いを話し合う。</li> <li>100を元にして、5800÷500を58÷5にして計算する。</li> <li>余りを3にするのか、300にするのか考える。</li> <li>確かめ算をする。</li> <li>全体交流をする。</li> <li>まとめる。</li> <li>鉛筆問題2を行う。</li> </ul>	<p>指導・援助の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>わる数、わられる数の両方にゼロがついていることに注目させる。</li> <li>個別指導をする。</li> </ul>	<p>主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題把握する。</li> <li>前時と本時の違いを話し合う。</li> <li>100を元にして、5800÷500を58÷5にして計算する。</li> <li>余りを3にするのか、300にするのか考える。</li> <li>全体交流をする。</li> <li>まとめる。</li> <li>りんご問題で答えを確かめる。</li> </ul>	<p>指導・援助の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数玉で考えさせる。</li> <li>わる数、わられる数の両方にゼロがついていることに注目させる。</li> <li>個別指導をする。</li> </ul>

ねらい	練習問題を解決することを通して、2けたで割る計算で学習した内容をより確かなものに行うことができる。					
評価規準	既習事項を使って問題を解決していくことができる。					
問題	P24の練習問題をやりましょう。					
課題	学習してきたことを使って答えを求めよう。					
12	<b>主な学習活動</b> ・練習問題に取り組む。 ・答え合わせをする。 ・計算ドリルに取り組む。 ・自己評価をする。	<b>指導・援助の工夫</b> ・これまでの学習の足跡を掲示しておく。 ・個別指導をする。	<b>主な学習活動</b> ・練習問題に取り組む。 ・答え合わせをする。 ・計算ドリルに取り組む。 ・自己評価をする。	<b>指導・援助の工夫</b> ・これまでの学習の足跡を掲示しておく。 ・個別指導をする。	<b>主な学習活動</b> ・練習問題に取り組む。 ・答え合わせをする。 ・計算ドリルに取り組む。 ・自己評価をする。	<b>指導・援助の工夫</b> ・これまでの学習の足跡を掲示しておく。 ・個別指導をする。
ねらい	具体的な場面で、計算練習をすることにより、2位数でわる除法について習熟する。					
評価規準	2位数で割る除法の計算に進んで取り組もうとする。					
問題	□本のえん筆を、12本ずつ箱に入れて一人一箱ずつ配ると、何人に配れるでしょう。					
課題	□の中にいろいろな数字を入れて、□÷12の計算をしよう。					
13	<b>主な学習活動</b> ・□の中に数字を入れて計算をする。 ・割り切れる数、余りのあるもの(仮商を大きくするもの)に分ける。 ・計算ドリルに取り組む。	<b>指導・援助の工夫</b> ・これまでの学習の足跡を掲示しておく。 ・個別指導をする。	<b>主な学習活動</b> ・□の中に数字を入れて計算をする。 ・割り切れる数、余りのあるもの(仮商を大きくするもの)に分ける。 ・計算ドリルに取り組む。	<b>指導・援助の工夫</b> ・これまでの学習の足跡を掲示しておく。 ・個別指導をする。	<b>主な学習活動</b> ・□の中に数字を入れて計算をする。 ・答え合わせをする。 ・計算ドリルに取り組む。 ・自己評価をする。	<b>指導・援助の工夫</b> ・これまでの学習の足跡を掲示しておく。 ・個別指導をする。
ねらい	練習問題を解決することを通して、2けたで割る計算で学習した内容をより確かなものに行うことができる。					
評価規準	既習事項を使って問題を解決していくことができる。					
問題	P25の練習問題をやりましょう。					
課題	学習してきたことを使って答えを求めよう。					
14	<b>主な学習活動</b> ・練習問題に取り組む。 ・答え合わせをする。 ・計算ドリルに取り組む。 ・自己評価をする。	<b>指導・援助の工夫</b> ・これまでの学習の足跡を掲示しておく。 ・個別指導をする。	<b>主な学習活動</b> ・練習問題に取り組む。 ・答え合わせをする。 ・計算ドリルに取り組む。 ・自己評価をする。	<b>指導・援助の工夫</b> ・これまでの学習の足跡を掲示しておく。 ・個別指導をする。	<b>主な学習活動</b> ・練習問題に取り組む。 ・答え合わせをする。 ・計算ドリルに取り組む。 ・自己評価をする。	<b>指導・援助の工夫</b> ・これまでの学習の足跡を掲示しておく。 ・個別指導をする。